

日本語学習者の発話に対する母語話者の印象

井内麻矢子

(97. 6. 21発表)

1. はじめに

日本語学習者の話す日本語の音声的な特徴を、日本語母語話者がどのように評価するかを調べるためのアンケート調査を行った。

アンケート調査の方法は、日本語母語話者を含む、11名の日本語の発話資料を大学の学部学生が聞き、それを自然な日本語と思うかどうか（自然度）、また、好ましく感じられるかどうか（好感度）を五段階で評価し、なぜそう思うのかを記述するものである。

その結果、以下の3点が主な傾向として見られた。

- 1) 自然度の評価については、評価者による差が少なく、その判断基準として、アクセント、発音、拍の誤りが多く挙げられていた。
- 2) 好感度については、自然度に比べ、やや評価者による差があり、その基準として、わかりやすさが多く挙げられていた。
- 3) 自然度の高さによる順位と好感度の高さによる順位は、上位と下位で、ほぼ同じような傾向を見せたが、発話資料によってはかなり差の出たものもあった。

また、本調査に先立って行った、日本語教師に対する予備調査の結果との比較において、発話の自然度については評価の類似傾向が、好感度については若干の相違傾向が見られた。

2. 調査の概要

本調査は、1995年4月、首都圏にある私立大学で、日本語教育法を受講する学部学生28名（女25名/男3名、以下、評価者）を対象に行われた。

調査の方法は、日本語母語話者1名を含む11名分の日本語発話資料を聞いて、自然度及び好感度について五段階評定をし、また、それぞれについて判断理由を記述するものである。なお、評価者は、発話資料に日本語母語話者が含まれていることは知らされていない。

調査に使用した発話資料は、日本国内で行われた日本語弁論大会出場者やNHKのテレビ語学講座のネイティブ講師のものを中心に、全てテレビで放送さ

れたものから収集した。今回の調査では、視覚による印象を排除するため、上記の資料より音声のみを取り出し、編集した物を使用した。

発話資料の内訳は以下のとおりである。

- 1) 1994年度「外国人による日本語弁論大会」出場者4名（発話資料1-4、以下、NJ1-NJ4）
- 2) NHK教育テレビ語学講座講師5名（同、NJ5-NJ6, NJ8-NJ10）
- 3) NHK解説番組講師1名（同、NJ7）
- 4) NHKテレビアナウンサー1名（同、J1）

3. 調査結果

3-1. 自然度に関する評価点による順位およびその内訳

NJ1からNJ10及びJ1の発話資料が自然か、不自然かを五段階で評価した結果を、評価点の高い方から並べると、日本語母語話者であるJ1を筆頭に、以下のようになる。

J1>NJ10>NJ9>NJ7>NJ6>NJ8>NJ1>NJ2>NJ3>NJ4>NJ5

各発話資料に対する、評価点の内訳は〈表1〉のとおりである。

〈表1〉発話の自然度についての五段階評定結果

	5	4	3	2	1	平均(点)
NJ1	0(人)	7(人)	5(人)	9(人)	4(人)	2.60
NJ2	0	5	8	13	2	2.57
NJ3	1	2	10	11	4	2.46
NJ4	0	2	6	15	5	2.18
NJ5	0	0	2	6	20	1.36
NJ6	7	12	6	3	0	3.82
NJ7	7	17	4	0	0	4.11
NJ8	1	4	9	11	3	2.61
NJ9	22	5	0	0	1	4.68
NJ10	24	3	1	0	0	4.82
J1	27	0	1	0	0	4.93

(網掛け部については4-1.参照)

3-2. 好感度に関する評価点による順位およびその内訳

NJ1からNJ10、J1までの発話資料に対し、好感を持ったかどうかを五段階で評価した結果を、評価点の高い方から並べると、以下のようになる。

NJ9>NJ10>J11>NJ6>NJ7>NJ3>NJ2>NJ1>NJ4>NJ8>NJ5

各発話資料に対する、評価点の内訳は〈表2〉のとおりである。

〈表2〉発話の好感度についての五段階評定結果

	5	4	3	2	1	平均(点)
NJ1	1(人)	5(人)	12(人)	8(人)	0(人)	2.96
NJ2	2	8	7	10	0	3.07
NJ3	2	6	12	7	0	3.11
NJ4	0	4	6	13	2	2.48
NJ5	0	1	4	10	12	1.78
NJ6	7	11	9	1	0	3.86
NJ7	4	13	7	2	0	3.73
NJ8	0	4	5	13	3	2.40
NJ9	22	4	2	0	0	4.71
NJ10	19	7	1	1	0	4.57
J1	16	6	5	0	0	4.41

(網掛け部については4-2. 参照)

4. 考察

4-1. 自然度に関する評価傾向

自然度に関する評価傾向は、評価者による差があまり見られず、発話資料11例のうち5例は、五段階評定の2段階に、4例は1段階に評価者の70% (約20名) が集まった (〈表1〉内、網掛け部参照)。

また、不自然に思った理由として挙げられていたコメントには、アクセントやイントネーション等、音の高低に関するもの、発音に関するもの、拍や話す速度に関するものが多かった。

そのほかには、文法の誤りを指摘するものが多かったが、中には「発音がはっきりしすぎる」「丁寧すぎる」等、正確さ以外に関する指摘も見られた。

4-2. 好感度に関する評価傾向

好感度に関する評価傾向は、自然度に関してより、評価が多段階に分かれ、五段階評定の2段階以内に評価が集まったものは7例だった (〈表2〉内、網掛け部参照)。

また、好感が持てたかどうかについては、個人的な「好み」に関するものなので、コメントも多岐に渡ったが、主として「わかりやすさ」を判断基準に挙げていたものが多かった。内容や正確さ以前の問題として、「わからない、聞き取りにくい日本語」に対する評価は概して低かった。

そのほか、挙げられたコメントを傾向別に分類したものを以下にまとめた。

- 1) 「発音が悪いのに早口」「うまくないのに早口」あるいは「聞き取りやすいがちょっと早口」等、早口に対する評価は低い。
- 2) 「早口でないし、はっきりしている」「はっきり、ゆっくりしていて聞きやすい」等、ゆっくり、はっきりに対する評価は高い。
- 3) 外国語の原語発音を日本語に混入させる話し方に対する評価は低い。
- 4) 「固い」話し方の評価は低い。
- 5) それぞれの日本語能力に相応な話し方は好感をもたれる。
- 6) 感情がこもっている、一生懸命であるという姿勢は好まれる。

4-3. 自然度の高さとは好感度の高さ

自然度と好感度の評価点による順位を比較してみると、以下のような傾向が見られた。

- 1) 自然度と好感度に共通して、上位5人と下位6人とが同人物で別れている。
- 2) 日本語母語話者の発話であるJ1が、好感度においては3番目に評価され、自然度の評価は6番目であるNJ8が、好感度においては10位と、低く評価されている。J1に対しては「固い」とするコメントが複数見られ、「アナウンサー的な無機質な感じが好きではない」とするものもあるなど、日本語として正確であることだけが好まれるわけではないことを示唆している。

また、NJ8に対する好感度評価では、「早口過ぎる」というコメントが最も多く、中には「うまくないのに早口である」「うるさい感じがする」といったものも見られた。この例は、ただ速く話せるということはさほど重要ではなく、言語には、それぞれに適した速さがあるということを示唆している。

5. まとめ

本稿では、母語話者が日本語学習者の日本語発話に不自然さを感じる原因について、また母語話者に好まれる発話の要因について調査を行い、そのどちらにも、一定の傾向が見られることがわかった。今後の課題としては、本調査の結果を踏まえ、発話資料や調査対象群等、より多角的に調査を進める必要があるだろう。

〈参考文献〉

- 東間由美・大坪一夫(1990)「外国人の日本語発話の日本人話者による評価」『日本語音声』
研究報告4 研究成果報告書1990 p.p.69-73
- 宮崎里司・H.マリオット・榎本早苗(1996)「交換留学生の日本語学習能力の発達評価－評価項目に関する考察－」平成8年度日本語教育学会秋季大会予稿集 p.p.87-92
(お茶の水女子大学人間文化研究科比較文化学専攻)